

女川 8.20

女川から未来をひらく夏の文化祭

日曜日 午前10時～午後6時

入場無料

会場：女川町まちなか交流館

女川町女川浜字大原 1-36 JR女川駅徒歩3分

震災から6年。小学1年生だった子は中学生になりました。あの日誕生した子も小学校に入学しました。鉄道が復旧し、駅前には商店街ができました。町の風景は変わりました。

この夏、女川の豊かな自然・文化の紹介をしつつ、たくさんの人に女川をもっともっと好きになってもらう交流の場をつくりたい。みんなで未来をひらく夏の文化祭です。ぜひあなたもご参加ください。



映画「新地町の漁師たち」



phoka



竹浦獅子振り（竹浦獅子振り保存会）
民謡・舞踊（女川町民舞連）

チェロとピアノ演奏（Blue）
パントマイム（森文子）
バイオリン独奏（荒井俊子）
歌・詩の朗読（地元の若者）
歌・ギター・ウクレレ・月琴（phoka）

映画「新地町の漁師たち」上映会（監督・山田徹）
新地町の漁師 & 地元の漁師 & 映画監督トーク

「女川海物語」写真展（小岩勉）
手回しオルガン（石川明）
紙ランタン（地元アーティスト）
絵画展（地元アーティスト）
懐かしい写真展（地元アーティスト）
小さいお店（いろいろ）

エコ生活指南 電気ガス節約 栄養美味しさアップ なべ布団で作る料理実演
なべ布団作り実演（参加希望は事前申し込み）
「ちょこっとあそぼう」コーナー（保健室のあねさん）
「自然と遊ぼう」ワークショップ

「大きな障子紙にみんなで絵描き」ワークショップ

その他続々（お楽しみに）



主催：「女川から未来をひらく夏の文化祭」実行委員会（代表：阿部みきこ 問い合わせ：090-1107-6894 荒井）



facebook <https://www.facebook.com/onagawamirai20170820/>



上映会 13:30

監督・製作：山田 徹
音楽：3日満月
製作年月：2016年
時間：89分
協力：相馬双葉漁業協同組合、相馬双葉漁業協同組合新地地区、株式会社自由工房、株式会社いちまるよん
<http://songriver-p.com/shinchi-ryoshi/>

見終えてすぐに、あの日、浜辺に打ち上げられていた、美しい大漁旗を想った。

震災の日から一か月ほど経って、まず出かけたのは、幼い頃に父と魚釣りに通った相馬や新地の岸边や港だった。あらゆるものが根こそぎ奪われ、津波の牙と爪のあとだけが生々しく至るところにあった。

砂に埋まるようにして、錦の旗はあった。私の知っている海辺の風景はもう戻ってこないのではあるまいか。立ち尽くして震えた…。その瞬間を思い出した。

この映画には、震災後の真実がある。悲しみと怒りと希望とがある。

この監督の人柄なのだろう。ある時には気の荒い、しかし人懐っこい漁師さんたちと深い笑顔を交わし合っている姿が、フィルムから伝わってくる。あるいは眼前の真実に、やはり立ち尽くし震えながら、それでも視線を逸らさずに追う若々しく誠実な情熱が。

一本の中に時の全てが詰まっている。映画の光と闇の中で、無数のさざなみの音に耳を傾けてほしい。震災があったから願うのではないのだ。

私たちはみな、いつも波と共に生きているのだ。

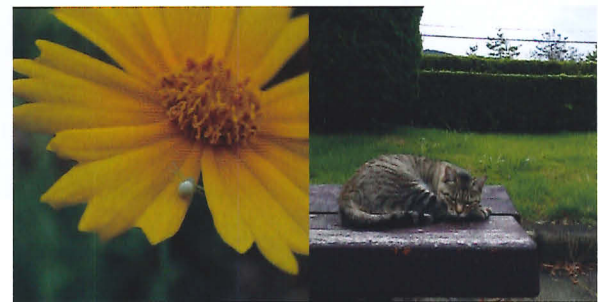
「安波祭」という祭りの日、船から掲げられた大漁旗が舞う、美しいシーンに誰しもが心惹かれるだろう。笑顔で見上げる子どもたちと、それを見守る漁師たち。

この子たちに海を返してあげたい。信じること。祈ること。

旗を跳ねる空からの光。風に吹かれることの瞬きを、今の暮らしの波打ち際でそれぞれに感じてほしい。

和合亮一(詩人)

新地町の漁師 & 地元の漁師 映画監督トーク 15:00



夏の文化祭 プレイバント

大きな紙にみんなで絵描き 8月5日

(土) 10:00-15:00

会場：女川小学校体育館



障子紙に墨と絵の具で、大漁旗または好きなものを描きます。作品は持ち帰ったり、夏の文化祭を彩ったりします。大人も子どもも、どなたでも参加できます。出入り自由です。

phoka コンサート 17:00

phoka (ホカ) 新潟県柏崎市出身 歌・ギター・ウクレレ・月琴
2009年 はじめての旅の上、屋久島にて突然に歌がはじまる。
声を捧げるように歌い紡ぐその音は、喜びと、今に在る全てへの賛美。
呼ばれたところへ、どこまでも、歌う旅の中。

私は日本中を旅まわりながら歌をうたっています。

道中に立ち寄れる原発は必ず訪れます。

どんなところに建っているのかを知りたいのです。

はじめて女川原発を訪れたときのことは鮮明に覚えています。

それは、あんまりにも美しいところだったからです。

透き通る海の青さに、ひろがる風景に、とても感動しました。

原発のあるところは、誰かの大切なふるさとであり、様々な生き物の住処である。

どんな権力も法律も手の出すことのできない、誰にも汚すことのできない、大切な何か詰まった場所だと思のです。

女川とその周辺に住む人々と、そこに生きる全てと、その土地が癒され、ありのままに在るように、祈りを込めて歌いたいと思います。

photo: Charu(Kawakita Film)

